

証券アナリスト(CMA)講座
第2次レベル

CMA✦
2025年度

LEVEL 2

スタディ・ガイド



公益社団法人
日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

CMA (Certified Member Analyst of the Securities Analysts Association of Japan) は日本証券アナリスト協会の登録商標です。

本著作物の著作権は、公益社団法人 日本証券アナリスト協会に属します。本著作物の全部または一部を、許可なく印刷、複写、転載、磁気もしくは光記録媒体への入力等、その方法の如何を問わず、これを複製することを禁じます。

2025 年度
証券アナリスト **CMA**※ 講座
第 2 次レベル

スタディ・ガイド

目 次

1. はじめに	1
2. CMA 資格取得までの流れ	2
3. CMA 講座内容	3
4. 試験の概要	5
5. 学習の進め方のポイント	7
6. よくあるご質問	12

このスタディ・ガイドは、2025 年度証券アナリスト(CMA)第 2 次レベル講座の受講者向けです。

1. はじめに

証券アナリストとは、証券投資の分野において、高度の専門知識と分析技術を応用して、各種情報の分析と投資価値の評価を行うことにより、投資助言や投資管理サービスを提供するプロフェッショナルとされています。

投資理論の発展、金融業務の規制緩和、日本経済の成熟に伴う資産運用ビジネスの拡大などから、証券アナリストの活動領域が大きく広がり、また、資産運用立国の実現に向けた、資本市場改革、サステナビリティ情報の開示、金融リテラシー向上への取組み等の進展を背景に、投資の意思決定に必要な深く幅広い知識・スキルを持つ金融・投資のプロフェッショナルへのニーズが、証券投資の分野を含む金融業界のみならず、様々なビジネス分野で高まっています。同時に、金融商品の進化・複雑化に伴い必要となる知識・スキルの高度化・多様化に対応した顧客本位の取組みや、ビジネスにおける法令遵守（コンプライアンス）の重視も大きな潮流となっています。

日本証券アナリスト協会は、広い視野、深い専門知識・分析能力、高い倫理観を備え、時代の要請に応える金融・投資のプロフェッショナルを育成するという使命に基づき、「日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）教育・試験制度」（以下、CMA プログラム）を管理・運営しています。日本証券アナリスト協会認定アナリスト **CMA**※ は、①当協会の定める所定の教育講座を受講した上で講座内容に基づく試験に合格すること、②一定期間の実務経験を有すること、により当協会の検定会員として認定されます。それは、同時に社会が求めるニーズに応えられる金融・投資のプロフェッショナルたりうる人材として認められた証となるものです。

CMA プログラムは 1977 年度に始まり、現在、CMA 資格称号を使用できる当協会の検定会員は約 2 万 9 千名（2025 年 3 月末現在）を数えています。CMA プログラムは制度開始以降、数度の改定を重ね、現在では以下の特徴を持つプログラムになっています。

◇ CMA として習得すべき 6 つの学習分野で構成

学習内容は、6 つの学習分野（①証券分析とポートフォリオ・マネジメント、②財務分析、③コーポレート・ファイナンス、④市場と経済の分析、⑤数量分析と確率・統計、⑥職業倫理・行為基準）で構成されています。

◇ 講座テキストによる自習方式

CMA 資格の取得希望者は所定の教育講座を受講して、CMA に求められる知識やスキルを網羅した「学習ポイント」に即して作成された学習分野別の講座テキストで学習します。講座テキストは、本文中の図解・数値例や例題に加え、章末のサマリー・練習問題等で構成されています。

このスタディ・ガイドでは、CMA 資格の取得を目指す 2025 年度 CMA 第 2 次レベル講座の受講者向けに、学習の手助けとなるよう、CMA プログラムの第 2 次レベル講座の内容を中心にその概要や学習の進め方などについて解説します。

なお、このスタディ・ガイドに記載されていない事項については、ウェブサイトの「[よくあるご質問](#)」も参考にしてください。

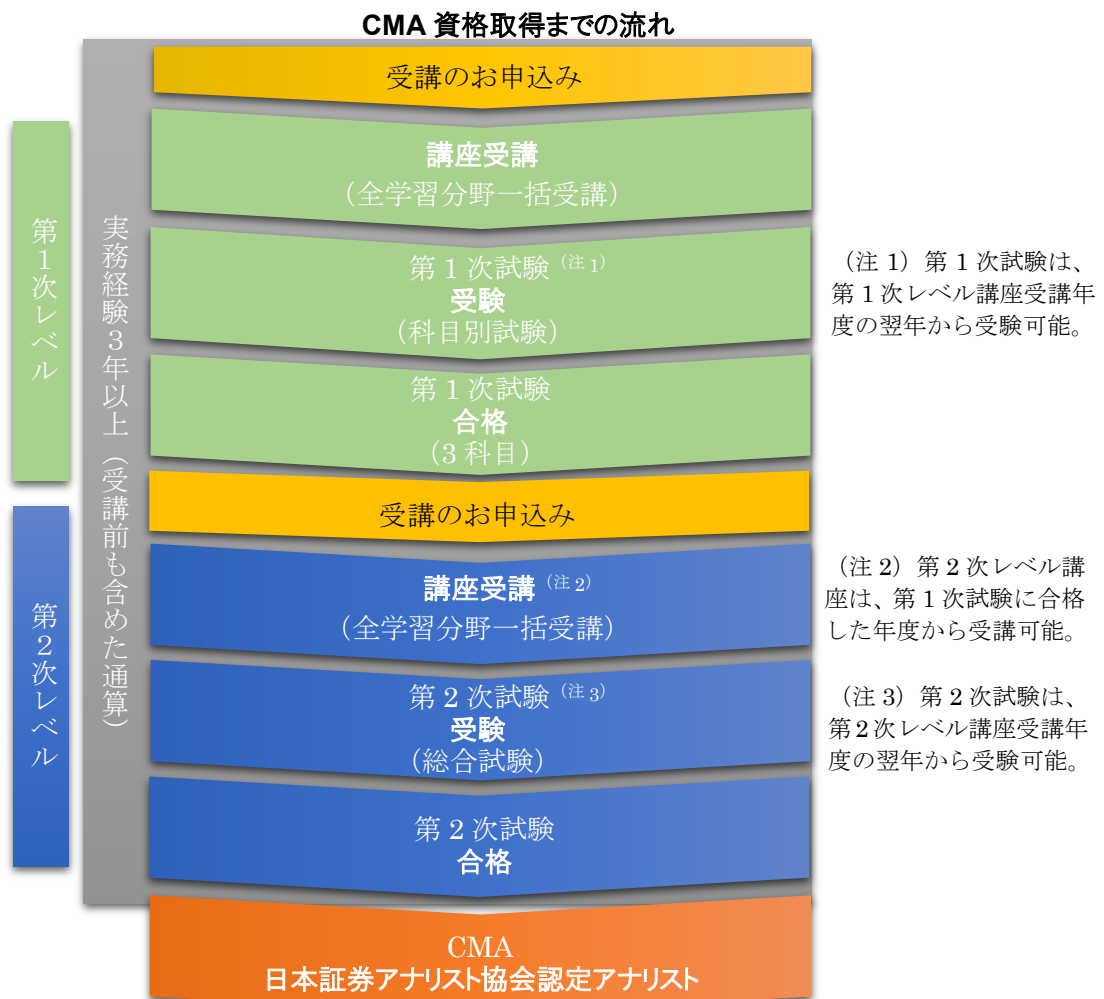
2. CMA 資格取得までの流れ

CMA 資格の取得にはまず、第 1 次レベル講座（6 つの学習分野）の受講（全学習分野の一括申込）が必要です。その後、各科目別に行われる第 1 次試験のすべての科目に合格※することにより、第 2 次レベル講座を受講資格が得られます。

第 2 次レベル講座の受講後、全学習分野の総合試験である第 2 次試験に合格し、第 2 次試験の合格後に所定の**実務経験**を 3 年以上有すると認定された方は、当協会に検定会員として入会することによって、資格称号として『日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）』を使用できます。このように、CMA 資格の取得に際しては CMA 講座の受講が必須であり、講座を受講せずに試験を受けることはできません。

2025 年度に第 2 次レベル講座を受講する場合、受講年度の翌年（2026 年）から 3 年以内の第 2 次試験を受験できます。第 2 次試験に合格し、その時点で実務経験が 3 年以上の方は、直ちに当協会へ入会申請すれば CMA 資格を取得することができます。

なお、第 2 次試験合格者で実務経験が 3 年未満の方は、その後、実務経験が 3 年に達した時点で CMA 資格の取得が可能となります。



※【CMA プログラム改定に伴う経過措置】（ご参考）

CMA プログラム改定に伴う経過措置として、改定前の旧プログラムに基づく第 1 次試験で合格した科目（旧科目）がある場合、現行プログラムで対応する科目（旧「証券分析とポートフォリオ・マネジメント」は科目Ⅰ、旧「財務分析」は科目Ⅱ、旧「経済」は科目Ⅲ）に合格したものとして取り扱います。

3. CMA 講座内容

(1) カリキュラム体系

CMA 講座のカリキュラム体系は以下のとおりです。

CMA 講座のカリキュラム体系

学習分野 (第 1 次・第 2 次レベル講座共通)
証券分析とポートフォリオ・マネジメント
財務分析
コーポレート・ファイナンス
市場と経済の分析
数量分析と確率・統計
職業倫理・行為基準

CMA 講座のカリキュラム体系は、第 1 次レベル講座、第 2 次レベル講座ともに、上記の 6 つの学習分野から構成されています。また、それぞれの学習分野毎に、「主要学習事項」を設定し、主要学習事項毎に習得すべきポイントと到達目標を「学習ポイント」として明示しています。講座テキストは、この学習ポイントに基づいて作成されており、試験ではこれらの学習ポイントの理解度を確認する問題が出題されますので、学習を進める過程で、学習ポイントの理解度を都度確認してください。なお、**第 2 次試験の出題範囲は、第 1 次レベル講座を含めたすべての学習ポイント**です。

第 1 次レベル講座と第 2 次レベル講座の各学習分野における主要学習事項および学習ポイントの詳細は、[こちら](#)をご覧ください。

(2) 開講期間

第 2 次レベル講座の開講期間は、受講申込年度の 8 月から翌年 3 月までの 8 ヶ月間です。受講開始後、講座テキストの自主学習を通じて、学習ポイントを着実に習得してください。すべての学習ポイントを十分に習得するために、**8 ヶ月間の受講期間で講座テキストを主体に以下の教材を計画的に学習し、試験に臨むことをお勧めします。**

※ 第 2 次レベル講座の受講は、第 1 次試験の合格後、合格した年を含めて 3 年以内に開始する必要があります。この期間内に第 2 次レベル講座を受講しないと、第 1 次試験の合格実績が失効し、第 2 次レベル講座の受講資格を失いますので、ご注意ください。

(3) 学習教材

第 2 次レベル講座の教材は、①「講座テキスト」、②「試験問題（過去問）および解答例」から構成されています（ともに、料金は受講料に含まれています）。

① 講座テキスト

学習ポイントに沿って、各学習分野における基本的な概念、理論、分析ツールの体系的な解説に加えて、それらの具体的・実践的な活用事例や数値例による補足説明、トピックスの紹介などが記載されており、第 2 次試験では、それらの内容に則して学習ポ

イントの理解度を問う事例問題や応用的な問題を中心に出题されます。

第 2 次レベルの講座テキスト（冊子）は、8 月、10 月、12 月、1 月の計 4 回発行されます。各学習分野の講座テキスト一覧と配本スケジュールについては、[こちら](#)をご覧ください。

なお、講座テキストは上記の冊子に加え、[マイページ](#)で PDF ファイルによる閲覧が可能（閲覧開始時期は配本スケジュールと同じ）です。

講座テキストの編集には万全を期しておりますが、万一誤りが発見された場合、マイページに掲載した PDF 版講座テキストを修正の上、「[学習教材に関するお知らせ](#)」に訂正表を掲載しますので、ご参照ください。

② 試験問題（過去問）および解答例

過去 5 年分の第 2 次試験の問題（過去問）と解答例を[マイページ](#)から閲覧できます。
（2022 年以前の試験問題はプログラム改定前の講座テキストに基づいた出題ですので、ご注意ください。）

また、過去 3 年分については、冊子でも提供されます（10 月に配本）。

※第 2 次レベル講座内容の詳細については、[こちら](#)をご覧ください。

4. 試験の概要

(1) 受験要件

CMA プログラムは、最終的に試験に合格して資格称号の認定を受けることだけの目的を達成すれば良いというものではありません。8 ヶ月に及ぶ受講期間を通じて講座テキストの内容を十分に習得することが目的であり、試験は講座テキストの内容、すなわち学習ポイントの習得度合いが、CMA として相応しいレベルに達しているかを測るために行われるものです。したがって、第 1 次試験、第 2 次試験は、いずれも CMA 講座の受講が受験の必須要件となります。

第 1 次試験、第 2 次試験ともに、講座を受講した翌年から一定期間（受験可能期間といい、原則として 3 年間）受験できます。また、受験可能期間内に試験に合格できなかった場合、期限内に改めて講座を受講（再受講）することで受験可能期間を延長できます。各自の受講状況、受験可能最終年、再受講の可否、第 1 次試験合格者の第 2 次レベル講座の受講開始の期限については、[マイページ](#)（マイページ＞受講受験の履歴確認＞現在の受講状況）で確認できます。

(2) 学習分野と試験の範囲

第 2 次試験は全学習分野を対象とした総合試験です。CMA プログラムは先述した 6 つの学習分野で構成されていますが、第 2 次試験は全ての学習分野を対象に、一括して実施されます。

第 2 次試験の対象となる学習分野

証券分析とポートフォリオ・マネジメント
財務分析
コーポレート・ファイナンス
市場と経済の分析
数量分析と確率・統計
職業倫理・行為基準

(3) 試験の実施時期、試験時間、試験形式 ^(注 1)

第 1 次試験と対比して、試験全体の概要を示すと、以下のようになります。

	実施時期	試験時間（配点）	試験形式
第 1 次試験	春：4 月下旬 秋：9 月下旬 または 10 月上旬	科目Ⅰ：170 分（170 点） 科目Ⅱ：100 分（100 点） 科目Ⅲ：90 分（90 点） 合計 360 分（360 点）	すべて正解が 1 つの客観問題 （計算問題、穴埋め問題を含む 選択肢形式＜マークシート方式 ^(注 4) ＞）。
第 2 次試験	6 月上旬	総合試験：360 分（360 点） ^(注 2) ^(注 3) （試験時間は午前・午後とも各 180 分）	計算問題を含む記述式応用問題。 採点に際しては、解答に至る 過程も考慮。

(注 1) 第 2 次試験の実施時期等の詳細は、当協会のウェブサイト（CMA 資格＞証券アナリスト第 2 次レベル講座＞[試験に備える・申し込む](#)）をご覧ください。

(注 2) 「職業倫理・行為基準」（午前の試験時間で出題）の配点は約 45 点です。

(注 3) 「**職業倫理・行為基準**」の得点が一定水準に達しない場合は、**総得点にかかわらず不合格になります。**

(注 4) 2026 年秋試験より、国内の会場（東京の一部会場を除く）でマークシート方式に代え、CBT (Computer Based Testing) 方式を導入する予定です。

(4) 第 1 次試験合格実績および第 2 次レベル受講資格の失効の取り扱いについて

- ① 受験可能期間（原則、3 年間）に実施された第 2 次試験がすべて終了した時点において、第 2 次試験に未合格（受験しない場合を含む）であっても、直ちに（その年度内に）第 2 次レベル講座を再受講すれば、引き続き第 2 次試験の受験が可能となります。年度内に再受講しなかった場合、第 2 次レベル講座の受講資格（第 1 次試験の合格実績）が失効し、第 1 次レベル講座の受講からやり直す必要があります。
- ② 第 1 次試験で 3 科目の合格を達成した場合、所定の期間内（その年度を含む 3 年以内）に第 2 次レベル講座の受講を開始しないと、第 2 次レベル講座の受講資格（第 1 次試験の合格実績）が失効し、第 1 次レベル講座の受講からやり直す必要があります。

5. 学習の進め方のポイント

ここでは、分野毎に、学習内容の概要と学習の進め方のポイントを解説します。

(1) 各分野間の関連について

第 2 次レベル講座においても、CMA プログラムのカリキュラム体系は 6 つの学習分野（①証券分析とポートフォリオ・マネジメント、②財務分析、③コーポレート・ファイナンス、④市場と経済の分析、⑤数量分析と確率・統計、⑥職業倫理・行為基準）で構成されています。第 2 次レベル講座では、いずれの分野においても、第 1 次レベル講座で学習した内容を踏まえ、CMA として求められる知識・スキルの習得に向けて、より実践的・応用的な内容を学びます。①～④の各分野では、証券アナリストに求められる実務上での活用を想定した実践レベルの専門的知識・能力の習得を目指します。加えて、⑤数量分析と確率・統計は各分野に共通して必要となる数理的な基礎知識の習得のために、また⑥職業倫理・行為基準は金融・投資のプロフェッショナルとしての職責を全うするに当たって求められる倫理観を備えるために、各分野と並行して学習します。

特に、⑤数量分析と確率・統計については、数理的な素養が高くない受講者には、各分野を学習する前提として学習するか、もしくは各分野の関連箇所の学習過程で、都度参照・確認しながら学習を進めることをお勧めします。

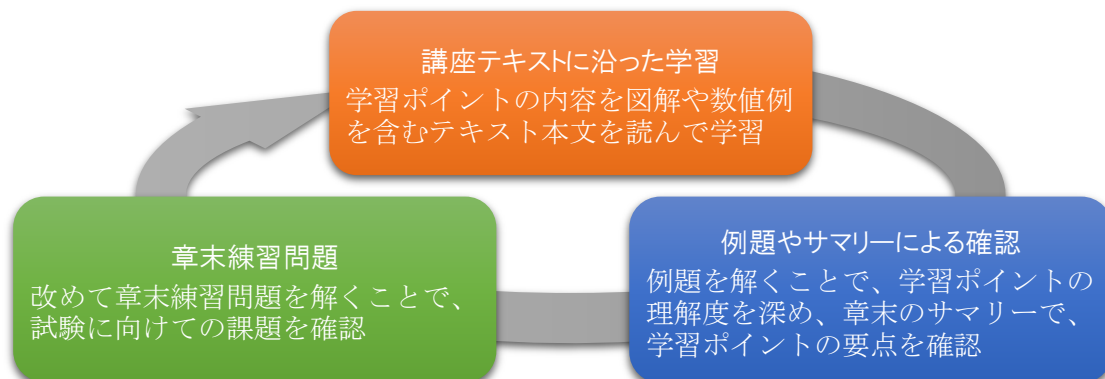
講座テキストは、「主要学習事項」について、CMA 資格者が習得すべき知識・スキルを「学習ポイント」として示した内容を新たに書き下ろしたものです。講座テキストを学習するだけで、試験に合格できる知識・能力を習得できることを企図しています。

また、⑥職業倫理・行為基準を除く 5 分野では、講座テキストの構成が共通しており、各章の冒頭で学習ポイントを示した上で、本文による説明とともに、要所に図解による例示や例題を含めた具体的な数値例を配して、説明を加えています。併せて、各章の終わりにはその章で学習した内容をサマリーとしてまとめており、理解が必須となる事項を再確認できます。さらに、各章末に練習問題を設け、これらを繰り返し学習することによって、理解を深められる構成になっています。なお、⑥職業倫理・行為基準では、『証券アナリスト職業行為基準 実務ハンドブック（2024 年改訂）』を第 2 次レベルの講座テキストとして使用します。

試験では、「学習ポイント」の理解度を確認する問題が出題されますので、講座テキストを着実に学習し、合格できる知識・能力の習得を目指してください。

なお、学習分野毎の主要学習事項および学習ポイントは、[こちら](#)をご覧ください。

繰り返し学習のイメージ



(2) 講座テキストの概要と学習の進め方のポイント

学習分野毎の講座テキストの概要と学習の進め方のポイントは、以下のとおりです。（なお、執筆者は今後変更になる場合があります。また、テキスト各章冒頭に示した学習ポイントは、毎年見直され適宜改訂されるため、その番号は、学習内容の分冊や章、第 1 次レベル講座への配分の関係あるいは前年度版との連続性などから、必ずしも連番にはなっておりませんのでご留意ください。）

① 証券分析とポートフォリオ・マネジメント

【概要】

（株式分析）

第 1 次レベル講座で株式価値評価手法の基礎を学習したことを前提に、株式価値評価手法の実務的な活用方法や留意点、株式運用によるリターンの評価方法を学習します。さらに投資戦略としての株式ポートフォリオの構築方法について、執行実務を含めて学習します。

【執筆者一覧】

伊藤 桂一（SMBC 日興証券）、内山 朋規（東京都立大学）、宇野 淳（早稲田大学）、吉野 貴晶（ニッセイアセットマネジメント、統計数理研究所、青山学院大学）（敬称略、五十音順、括弧内の所属は原則として原稿執筆時。以下同様。）

（債券分析）

第 1 次レベル講座の学習を前提に、金利変動モデルやファクター・モデル、オプション内蔵型債券や変動利付債、証券化商品などの価格評価、信用リスク分析、債券ポートフォリオの投資戦略の学習を通じて、債券ポートフォリオ戦略の習得を目指します。

【執筆者一覧】

有江 慎一郎（アムンディ・ジャパン）、市川 達夫（ゆうちょ銀行）、江川 由紀雄（流動化・証券化協議会）、大森 孝造（大阪経済大学）、菊川 匡（野村證券）、宋 明子（日経金融工学研究so）、森田 和樹（日経金融工学研究so）

（デリバティブ分析）

第 1 次レベル講座の学習を前提に、リスク中立確率とオプション価値評価、ブラック＝ショールズ・モデル、金利・通貨スワップやその他の金利・通貨デリバティブ、クレジット・デリバティブと CDS、デリバティブを用いた投資戦略の応用について学習します。投資戦略の応用については、今年度の改訂により説明や事例、練習問題を大幅に強化しています。なお、アセットスワップの節では、スワップのキャッシュフローを具体的に扱えるよう、事例で用いている EXCEL ファイルを提供します。

【執筆者一覧】

大橋 和彦（一橋大学、東京科学大学）、小畑 崇弘（アセットマネジメント One）、加藤 敢（アセットマネジメント One）、瀬古 進（三菱 UFJ トラスト投資工学研究so）、谷 栄一郎（大和証券）、中島 佳樹（アセットマネジメント One）

（ポートフォリオ・マネジメント）

第 1 次レベル講座で学んだ現代ポートフォリオ理論やポートフォリオ・マネジメントの基礎的な内容を踏まえて、投資政策やアセット・アロケーション手法の実際やポー

トフォリオの構築とリスク管理手法、国際証券投資にかかる諸問題、投資パフォーマンスの測定と評価の手法、個人投資家の資産運用と行動ファイナンス理論、不動産やヘッジファンド等を含むオルタナティブ投資といった専門的な事項を学ぶことで、高度な資産運用プロセスを実現するための実践的なポートフォリオ・マネジメント手法の習得を目指します。

【執筆者一覧】

磯貝 明文（三菱 UFJ トラスト投資工学研究所）、井上 光太郎（東京科学大学）、岡田 克彦（関西学院大学）、岡本 卓万（三菱 UFJ 信託銀行）、春日 俊介（野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング）、喜多 幸之助（ラッセル・インベストメント）、後藤 順一郎（アライアンス・バーンスタイン）、坂巻 敏史（三菱 UFJ トラスト投資工学研究所）、佐藤 賢一（三菱 UFJ トラスト投資工学研究所）、鳥井 裕史（SMBC 日興証券）、野崎 真利（三菱 UFJ トラスト投資工学研究所）、藤井 春登（ラッセル・インベストメント）、右田 徹（元 イボットソン・アソシエイツ・ジャパン）、山口 勝業（早稲田大学）、山本 修（ユニゾン・キャピタル）、吉田 靖（東京経済大学）、四塚 利樹（早稲田大学）

＜「証券分析とポートフォリオ・マネジメント」の学習の進め方のポイント＞

配本スケジュールに合わせて学習を進めていくことで、第 2 次レベル講座で習得すべき内容について、順を追って理解を深められるようになっています。理解が難しい箇所は、必要に応じて第 1 次レベル講座のテキストや、並行して学習する⑤「数量分析と確率・統計」における関連する箇所（章・節）の学習内容も参照しつつ、理解を深めるようにしてください。

② 財務分析

【概要】

第 1 次レベル講座において企業会計の基礎的事項を学習したことを前提に、高度かつ綿密な財務諸表分析を行うことができるよう、収益と費用の認識と費用および主要な会計分野についての応用的事項の習得を目指します。次いで、財務分析の応用として、企業分析を行うに当たり、認識しておくべき様々な財務分析の視点や財務諸表から得られる情報の活用・分析手法の習得を目指します。

【執筆者一覧】

秋葉 賢一（早稲田大学）、石川 博行（大阪公立大学）、大雄 智（横浜国立大学）、大瀧 晃栄（SMBC 日興証券）、音川 和久（神戸大学）、貝増 眞（元日本証券アナリスト協会）、後藤 潤（格付投資情報センター）、中條 祐介（横浜市立大学）、林 隆一（神戸学院大学）、山下 奨（武蔵大学）、山田 純平（明治学院大学）

＜「財務分析」の学習の進め方のポイント＞

配本スケジュールに合わせて学習を進めていくことで、第 2 次レベル講座で習得すべき内容について、順を追って理解を深めていくことができるようになっていきます。

まず、財務諸表を読み取るために必要な企業会計の応用的事項を学ぶことから始めます。次に、「財務分析の応用」として、それまでに学んだ企業会計に関する基礎的・応用的事項をもとに、様々な財務分析の視点や財務諸表から得られる情報の応用的な活用・分析手法を学んでいきます。

③ コーポレート・ファイナンス

【概要】

投資の意思決定の実務応用から始まり、企業価値評価の実践的応用や企業の配当政策について学び、企業の M&A と再編手法について学んだ後に、再度、企業価値評価の総仕上げおよび企業のリスク管理の応用、コーポレート・ガバナンスの応用について学習します。なお、第 2 回第 2 章では、企業価値分析について手触り感をもって修得できるよう、テキストの事例の EXCEL のファイルを提供します。

【執筆者一覧】

朝岡 大輔（明治大学）、砂川 伸幸（京都大学）、上田 亮子（SBI 大学院大学）、鈴木 一功（早稲田大学）、俊野 雅司（成蹊大学）、畠田 敬（神戸大学）、舟津 昌平（東京大学）、安武 妙子（創価大学）、山崎 尚志（神戸大学）

＜「コーポレート・ファイナンス」の学習の進め方のポイント＞

この学習分野の中心的なテーマである企業価値評価について、第 1 次レベル講座で習得した基礎的な内容を前提に、応用的な内容に展開したのち各テーマについて、配本の順に理解を深められるようになっていきます。

第 1 次レベル講座同様、技法的な内容は、模式図や数値例、例題で具体的にイメージができるよう構成されています。企業価値評価を行う上での実践的な内容については、EXCEL シートによる具体例を用いながら学習を進めて下さい。

④ 市場と経済の分析

【概要】

第 2 次レベル講座では、第 1 次レベル講座で習得した企業業績を分析する上で必要な基礎的な経済理論をベースに、企業行動・消費者行動の特徴や市場のメカニズムをより発展的に学びます。また、他分野のテキストと重複する箇所もありますが、経済の制度や規制等に関しても、その大枠の理解を促進するため、詳しく説明しています。本テキストで学ぶことで、将来予測する上で必要な経済理論をベースに市場や経済の動向を分析できるようになるなど、より実践的なレベルで CMA としての市場や経済の分析の応用能力を身につけることが期待されます。なお、2025 年度版講座テキストは前年

度版から基本的な内容に変更はありませんが、第 3 回テキストの第 3 章と第 4 章の本文を全面的に書き換えました。

[執筆者一覧]

植田 健一（東京大学）、清田 耕造（慶應義塾大学）、熊本 方雄（一橋大学）、塩路 悦朗（中央大学）、清水 克俊（名古屋大学）、田村 浩道（東京理科大学）、服部 孝洋（東京大学）

＜「市場と経済の分析」の学習の進め方のポイント＞

第 2 次レベル講座でも第 1 次レベル講座と同様に配本スケジュールに合わせて学習を進めていくことで、順を追って理解できるようになっています。例題や練習問題を解くことで理解が深まり、市場や経済の分析の応用力が高まることが期待されます。また、不慣れな受講者にとってはやや難解な数式表現が出てくる場合がありますが、「数量分析と確率・統計」の学習内容を参照することで、理解を深めるように学習を進めて下さい。

⑤ 数量分析と確率・統計

[概要]

CMA 講座の理解に必須となる数理的な知識・スキルを集中的に習得するために設けられた分野です。第 2 次レベル講座では、ポートフォリオ分析とベクトル、行列、重回帰、主成分分析などの多変量解析、時系列分析、シミュレーションによる分析手法について学ぶほか、試験範囲ではありませんが、テクニカル分析およびビッグデータ分析と AI・機械学習についての概略も学びます。

[執筆者一覧]

加藤 敢（アセットマネジメント One）、嶋田 康史（SBI 新生銀行）、鶴田 大（専修大学）、豊島 裕樹（SBI 新生銀行）、大和 大祐（NRI デジタル）

＜「数量分析と確率・統計」の学習の進め方のポイント＞

「数量分析と確率・統計」分野単体として読み進められるよう、できるだけ平易に解説しています。第 1 次レベル講座と同様、文章を読んでピンと来ない場合でも、まず数値例や例題を読み進めてみてください。具体的にイメージが湧いて理解しやすくなるはずです。また、第 2 次レベル講座では、特に各分野の実務での数理的な分析などを「解釈できる」、「使える」よう、その数理的な前提を理解できることを重視していますので、例題や章末問題を解き慣れることで、各学習分野の数理的なスキルを身に付けられるよう学習を進めてください。

⑥ 職業倫理・行為基準

[概要]

第 2 次レベル講座では、『証券アナリスト職業行為基準 実務ハンドブック（2024 年

改訂)』(第 1 回配本)を講座テキストとして、CMA が遵守すべき「証券アナリスト職業行為基準」の各規準について、基準を遵守した業務遂行の重要性を理解することを目指します。顧客に対する証券分析業務として「投資情報の提供」「投資推奨」「投資管理」を行う際に、CMA が忠実義務と注意義務を果たし、信任義務 (Fiduciary Duty) を全うする上で、個別基準を遵守した業務遂行の重要性について、具体的な**事例**を踏まえて解説します。

【執筆】

日本証券アナリスト協会

＜「職業倫理・行為基準」の学習の進め方のポイント＞

日々の証券分析業務が「証券アナリスト職業行為基準」の各規準と、どのように関連しているのかを常に意識し、実務ハンドブックの各**事例**と関連する基準の解説を反復するように学習してください。特に 1 つの行為が複数の基準と関連するような場合には、信任義務 (Fiduciary Duty) を全うする上でより重要な基準は何かということを常に意識してください。

前述のとおり、CMA プログラムの講座テキストは、学習ポイントに基づいて作成されており、第 2 次試験の出題範囲は、第 2 次レベル講座だけでなく、第 1 次レベル講座を含めたすべての学習ポイントです。

講座テキストを十分に習得するために、上記「講座テキストの概要と学習の進め方のポイント」を参考に、計画的に学習の上、試験に臨むことをお勧めします。

6. よくあるご質問

証券アナリスト (CMA) 講座に関する「よくあるご質問」については、[こちら](#)をご覧ください。

以上

CMA[※] 2025年度

証券アナリスト（CMA）講座
第2次レベル

L E V E L
2

スタディ・ガイド

編集兼発行所

公益社団法人 **日本証券アナリスト協会**

〒103-0026

東京都中央区日本橋兜町2-1 東京証券取引所ビル5階

印刷：株式会社 太平社

発行日：2025年8月15日